

昭和40年度 和歌山県文化賞

あま いし ひろし
天 石 弘 (号 東村)

住 所：和歌山県和歌山市
出 身 地：和歌山県和歌山市
生 年：大正2年

■ 職業
大学教官・書家

◎業績及び経歴

昭和8年和歌山師範学校を卒業後文検に合格し、県立和高女、桐蔭高、和大講師を歴任、この間教壇を去って書道一途に精進し、日展で2回特選、昭和33年日展審査員となり書道界最高の名誉ある地位を得るに至った。

氏は数多い中国の古典の中特に王鐸を中心とした明清書風を専攻され、それに日本の空海、行成、良寛の名蹟からも影響を受けて繊細な感覚によって独自の書風を創り日本書壇で注目される少壮書家である。

昭和23年書道教育連盟を結成、毎年小・中・高児童生徒の競書会、書き初め会を開催し、毎回参加児童生徒11万余人を数え量・質共に全国書道教育界の最高水準に達する業績をあげ県下書道教育の振興につくした功績は偉大である。

昭和27年小学校、同30年中学校の国語科書写教科書を執筆好評を博し発行部数第一位の成績をあげている。

昭和40年7月には日本書道代表団の一員として中国を訪問、日中文化交流にも尽力した。

現在全日本書道教育研究会副理事長、近畿書道教育研究会会長、日本書芸院理事などをつとめ活躍している。